

# 大谷石加工の技 伝承

大谷石の施工や加工をする職人の技を伝承しようと、産地の宇都宮市で石材加工の技術者を育成する講座「大谷アカデミー」が来春開校する。彫刻や施工のできる職人の高齢化や後継者不足で技の伝承が危ぶまれるなか、地元の石材業者が人材育成に乗り出す。

## 宇都宮・石材業者

大谷石内外装材協同組合と大谷石材協同組合の二つの組合が協力し、「大谷アカデミー開校準備室」を設けた。関係者は今月、金沢に残る伝統の職人の技を伝える「金沢職人大学校」を視察し、育成方法やカリキュラムなどを学んできた。

準備室の事務局によると、大谷石は国内外から引き合いが増えており、東日本大震災以降、安全性への要望のほか、凝ったデザインなど顧客のニーズが多様化しているという。

全国に150ほどある大谷石の歴史的建造物はほとんどが築60年を過ぎ、維持修復の課題もある。現在、大谷石の彫刻や施工ができる熟練の職人は3人ほ



壁には大谷石が使われ、国の有形文化財に登録されているカトリック松が峰教会。宇都宮市松が峰1丁目

## 人材育成へ来春から講座

どといい、技術を受け継ぐ後継者の育成が求められている。

「このままでは、大谷石の歴史的建造物は老朽化のために解体されるだけ。維持修復と、顧客のニーズに応えるためにも彫刻をやりたい若手技術者を育てたい」と大谷アカデミーの事務局長を務める石材業「大谷石産業」の飯村淳さんは、アカデミーの必要性を強調する。

校長には宇都宮大の藤本信義名誉教授、技術指導部長には帝国ホテルの復元にも携わった大谷石彫刻家の渡辺哲夫さんを迎える。講座は、大谷石の歴史や図面の見方、施工方法などの座学のほか、彫刻や石の積み方、張り方など実技も学ぶ。子どもの頃から大谷石に親しんでもらおうと、小中学生を対象にしたジュニアマイスター講座の開講も予定している。

講座は半年～1年間。学費は入学金5万円、月1万円。年齢は50歳以下で、定員は10人程度。来年1月中旬ごろから願書を受け付け、書類選考と面接を経て2月に入校者を決める。問い合わせは大谷アカデミー開校準備室（028・652・7001）へ。（田中正一）